

街道を歩く

中山道：豊郷(下枝)ー愛知川ー五個荘

朝鮮通信使街道：八幡橋(愛知川)ー北腰越(安土)

伊庭城址

佐々木六角氏の守護代伊庭氏の居館が伊庭城。この辺りは伊庭荘と云われる荘園であった。中世伊庭氏が築城の際瓜生川の水を引いて内湖に流れる堀を水郷造った。伊庭氏は内湖、琵琶湖の掌握し軍事、漁業の権力を保有していた居館は江戸時代は代官所、明治時代は役場、小学校。現在は公民館



伊庭城跡

伊庭 大浜神社

連歌師 宗祇法師出身地

佐々木六角氏重臣伊庭氏の出芭蕉は"西行の和歌、宗祇の連歌、雪舟の絵、利休の茶"と尊敬していた連歌は和歌から俳諧へ移る過程に生まれた文学。室町時代盛んになる。江戸時代寂れる



織峰三神社

織山 いしばじ 石馬寺

聖徳太子開基、本尊千手観音菩薩 聖徳太子が伽藍建立の地を求めてこの地を訪れ乗馬を山麓に止め山上に登り下山した所馬が石になっていた伝説 本堂は伊庭御殿移設の説あり

須田川

1 "是より総見寺領"碑

超光寺 山門は焼け残った総見寺裏門移築

やすらぎの郷公園

法華塔

北腰越 信長織山と安土山の鞍部を削り開く

旧外村繁家

外村宇兵衛の妹みわに婿養子吉太郎 迎え分家が始り。吉太郎は明治40年 東京に木綿呉服問屋を始め活躍する 三男として生まれるが跡を継ぐ。東京 帝国大学経済学部で学ぶが文学に志し、一時家業継ぐも弟に任し作家活動に専念する。代表作 草筏、筏

近江商人の里(五個荘商人)

近江国出身、近江拠点の行商人 天秤棒を担いで近江の産物を持ち下り 行商先から産物を購入、上方へ運ぶ、いわゆる"諸国産物廻し"の商法で全国に商圏を広げる。五個荘商人は、日野、八幡商人より遅れ幕末から活発になる 扱いは呉服、編み笠、高宮布、野洲晒し...

旧外村宇兵衛家

外村与左衛門(6代)の末子嘉久が分家し 宇兵衛家を興し独立し商いを始める 呉服類を中心に商い、東京、京都、福井に商圏を広げ豪商となる

日本電気硝子 能登川事業所

八幡橋

愛知川

JR東海道本線

能登川町役場

垣見

能登川神社

佐野

住友生命

猪子

佐生

伊庭御殿跡

將軍家光が上洛の時 小堀遠州の作事で造る

妙啓寺

望湖神社

織峰三神社

安楽寺

豊満神社

祭神 足仲彦命(仲哀天皇) 息長足姫命(神功皇后) 菅田別命(応神天皇)

社伝では神功皇后の三韓出兵の時この社の竹を軍旗の竿にしたところ勝利したので軍旗を祀った以後境内の竹を軍旗の竿にすると武運が開けると云うので源頼朝も祈願したと云う。別名"旗の宮"。四脚門は鎌倉時代後期建立(國重文)

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

千樹寺(江州音頭発祥の地)

行基創建の四十九院の1つ、観音堂と呼ばれる。信長の兵火で焼失。藤野 太郎右衛門が再建。その時の住職が境内に人形を並べお経に音頭をつけ唄い、踊ったのが江州音頭の始まりと言うその後焼失、2代目藤野が再建。落慶法要は日傘、扇子が加わり一段と華麗になったと言う

歌詰橋、将門首塚

藤原秀郷が平将門を打ち京へ帰る途中 この橋のたもとにきた時将門の首が追ってきた。秀郷が歌を一首と云うと歌に詰まって橋の上に落ちたという 近くに将門の首を葬ったとされる塚がある 円墳(5C末ー6C 高さ4.3m直径25m)

愛知川宿(高宮宿より2里、江戸から65番目)

愛知川の湧水、豊かな土地、適度な湿度により 麻織物が盛んとなり近江上布と知られ交易の中心として発展、江戸時代は宿場として栄える この辺り街並は東から沓掛、中宿、愛知川宿と続く(本陣1、脇本陣1、問屋場2、旅籠28)

宝満寺(浄土真宗 本尊大日如来)

延暦5年(786)秦満が知徳の後を継ぎ 豊満神社の別当寺となる。もと大國庄の大國寺といひこ豪族愛知氏の屋敷跡に移る 親鸞が流罪の地越後から京に帰る途中 ここにより住職を教化、真宗に改宗 境内に親鸞お手植えの紅梅がある

八幡神社

聖徳太子が物部守屋との戦いの時身の安全を祈願、神託によりこの神社に身を隠し難を免れる。太子は報賽に田園を奉納。 皇室の崇敬篤かった神社 境内に淡海公藤原不比等の墓と云われる墓がある。

歴史民俗資料館 旧藤井彦四郎家

あきんど大正館

旧外村宇兵衛家

旧外村繁家

総合案内所

大城神社

金堂

てんびんの里 文化学習センター

北町屋

呉服商市田邸跡

明治天皇北町屋御小休所

名残の松

西沢梵鐘

郡分地蔵

宝満寺

八幡神社

不飲川

不飲橋

一里塚碑

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

常夜灯

享保3年(1718)の道標が立つ 朝廷が伊勢、多賀大社へ参拝する時代参を立てたことからその名がつく 八日市、日野、笹尾峠を越え土山宿へ